

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0571111244		
法人名	社会福祉法人 北秋田市社会福祉協議会		
事業所名	たかのす社協つづれこ認知症対応型共同生活介護事業所		
所在地	秋田県北秋田市綴子字大堤家後26番地3		
自己評価作成日	令和3年1月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは2階にあり、1階にはデイサービス事業所があることで、デイサービスを利用されている方と交流できます。
調理はデイサービスの調理員と連携し、掃除については、清掃業者が行っており、入所定員も8名のため、職員はゆとりをもって入居者の方と関わりを持つことができます。また、宿直員を配置しているため、夜間は2名で災害時、緊急時に対応できます。非常勤の看護職員を1名配置しておりますが、看護師が不在時の日中はデイサービスの看護師に入居者の健康状態について相談できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染防止対策のため、ホーム内の生活が中心となっています。法人本部から職員の行動について指示がある他、温度、湿度を管理しながら10分に1度の換気と日に3度の消毒を行い、法人本部とホームが一丸となって感染予防に努めています。また、第三者委員の訪問による利用者との対話と視察が行われ、ホームのアドバイザーとしての提言を運営に反映できるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を振り返る機会を持ち、職員の目が届く場所に掲示し、実践に向け取り組んでいる。	年度初めの勉強会で家族アンケートの結果を基に理念の振り返りを行っています。また、理念を今まで以上に意識して支援できるように掲示する場所を変更しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防のため外部との交流を中止している。	1階で行われる自治会の行事やデイサービス利用者、地域の方との交流が行われていたが、会報で自治会の情報を得ることはあるものの、コロナ禍で外部との接触を自粛しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染症予防のため外部との交流を中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は開催せず、文書による報告を行っている。	行政、民生委員、自治会長、家族が会議メンバーとなっており、今年度は資料送付にとどまっていますが、それ以前は対面で開催しており、ホームの状況報告に対して意見交換し、サービスの向上に繋げていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として指導、助言頂いている。生活保護を受給されている方も入居されていて、その都度相談している。	生活保護担当職員はじめ担当部署との連絡を通じて協力が得られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針を整備し、3ヶ月に1度委員会を開催している。職員には年2回の研修を行っている。	研修を行い、言葉遣いや対応が身体拘束にあたらないか話し合っており、適正化委員会の会議録を回覧して職員への周知を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備し、事業所内でも学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている入居者がおり、事業所でも学ぶ機会を持ち制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や介護報酬改定時等に、その都度説明を行い、同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、家族に対しアンケート、苦情解決第三者委員に訪問により、意見や要望を伺い改善に努めている。	家族アンケートで意見の引き出しに努めています。苦情等が出ることはありませんが、第三者委員から出た意見を改善に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度の個人面談、毎月の職員会議で出された意見や提案を改善できるようにに努めている。	職員会議で出た意見、要望等は管理者会議を通じて法人本部に伝えるシステムになっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や職員会議等で出された意見を改善し、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行い、外部研修や法人内研修への参加の機を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームと小規模多機能型居宅介護事業所で連絡調整会議を行い情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、要望等を伺い不安なく入居していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、要望等を伺い不安なく入居していただけるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の状況に合わせ、出来るところは行ってもらい、出来ない所は職員と一緒に行う様に努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方に日ごろの様子を電話で伝える時など、本人と電話で会話していただいている。 普段の様子をお便りでも伝えている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会を制限しているため、オンラインでの面会で対応させていただいている。	デイサービス利用者との交流や知人の面会を受け入れ、帰宅や外食、通院等、家族が関われることに協力が得られていましたが、現在は感染防止対策のため、訪問理容の方と馴染みの関係を維持しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルや孤立しないように、座席等配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、今後の相談や支援を、家族の希望する居宅介護支援事業所へお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から、希望や意向を聞き取り、応えられるように努めている。	本人との会話や日常の様子から把握したことを介護計画に取り入れ、必要な支援が行われています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から生活歴を記入して頂き、これまでの生活状況の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや連絡ノートなどで、一人ひとりの状況を把握し、その方にあった生活ができるように努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、担当者会議を行い作成している。毎月の職員会議でも状況を確認し、意見を聞いている。	職員会議、担当者会議で意見を収集し、現状に即した介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や朝夕の申し送りにより情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症予防のため外部との交流を中止している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が以前から通院している医療機関へ受診できるように支援している。	個々のかかりつけ医で看護師の介助によって受診しており、薬局の協力も得られています。歯科については状況に応じて通院、訪問診療が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時は看護師が同行し、医師に状態を説明している。看護師とは24時間連絡を取れる体制で体調変化など気付いたことは相談し、指示を得ている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、管理者、看護師が医療機関と情報交換し連携が取れるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合にかかる指針を説明し、同意を得ている。	重度化した場合の対応は医師と連携を図り、今後の方針を決めています。指針に沿ってホームででき得ることを説明し、状態に応じて特養への申し込みを併せて行っています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、体制についての手順について勉強会を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、災害時の対応について学習会を行った。自治会長、民生委員には協力を頂ける体制となっている。	マニュアルを基に勉強会を行って対応を確認しています。夜間は宿直職員と2人体制となっており、訓練では見守りをさせていただく等、地域の協力が得られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての勉強会を行い、一人ひとりに合った対応や言葉かけに努めている。	利用者によっては声のかけ方をルール化する等、一人ひとりの状態や性格に合わせて対応できるよう話し合っています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から希望や訴えを聞き取り、希望に沿えるように努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごして頂けるように、声かけ、見守りを行っている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着たい衣類を選んでもいい、整容してもらっている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の意見を参考にし、季節の食材を取り入れるようにしている。テーブル、食器拭きなどを一緒に手伝ってもらっている。	雑誌やテレビの情報から食べたいものを献立にあげたり、だまこづくりを毎年行う等、季節感のある食事を提供しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量で提供し、1日の食事量、水分量を記録している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行ってもらっている。自分で出来ない方は介助を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、一人ひとりに合った声かけや誘導を行っている。	日中は全員トイレで排泄しています。排泄用品を使用している方もいることから誘導を工夫する等して費用負担の軽減を図り、チェック表を活用した支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳を提供し、好みの飲み物を準備し水分摂取に努めている。午前と午後には体操を行ってもらっている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間については施設の都合で決まっているが、本人の希望や体調に合わせて入浴できるように努めている。	週3回程度の支援が行われています。入浴しない方には清拭を行い、拒否のある方には入浴表で確認し、工夫しながら入浴を促しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で昼寝をする方や、一人ひとりの状況に合わせた休息や安眠できるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容、副作用について一人ひとり確認できるようにファイルしている。処方内容が変更になった時は看護師から申し送られる。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や編み物などが出来るように支援している。自分の洗濯物をたたんで頂いたり、食後の後片付けを手伝ってもらい役割をもって過ごして頂けるように努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事予定を立て外出していたが、今年度は中止となった行事もあった。	ドライブや希望に応じた買い物、散歩、また、家族の協力もあって外出支援を行っていましたが、現在は感染防止のため、通院が戸外に出かける機会となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの依頼で施設側で管理している。希望者には少額を自己管理している方もいる。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話を掛けたり、家族から電話があった時は取次ぎしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や、温度管理を行い快適に過ごして頂けるように支援している。観葉植物を置いたり、季節の花を飾ったりしている。	観葉植物の管理や熱帯魚の餌やりを利用者と一緒に行って共用の場としての環境を整え、日めくりカレンダーや貼り絵で季節が感じられるように配慮しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の好きな場所で、気の合う方と自由に過ごして頂けるように支援している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由で、テレビや家族の写真を持ってきている方もいる。	馴染みのものの持ち込みを勧めています。が、それに応える家族は少ないものの、置物を持参する等して生活の場づくりが行われています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計や暦を設置し、トイレや風呂場には貼り紙をしている。居室前に名前を貼ったり、混乱が少なくなるように配慮している。		